

序 文

「日独排水及びスラッジ処理のワークショップ」は、1974年10月に日独政府間で締結された「科学技術分野における協力に関する日本国政府とドイツ連邦共和国政府との間の協定」に基づく環境保護パネルにおいて開催が合意されたものである。1976年6月に設置された「日独環境保護技術パネル」の第4回会合の席上でドイツ側より、下水道技術について専門家による情報交換を深めるためのワークショップの開催が提案された。この提案を受けて準備が進められ、1982年10月に建設省土木研究所（当時）で日独ワークショップの第1回会議が開催された。以降、2～3年毎にドイツと日本で交互に開催されている。

今回の第9回日独ワークショップは、2004年1月27日から1月30日までつくば市、東京都、京都府及び滋賀県で開催され、日本側委員団は、国及び政令市からの参加者を含め合計20名が、ドイツ側からはドイツ連邦教育科学研究技術省のHeidborn研究部長をはじめとする10名が参加した。

論文発表及び全体討議は、27日、28日の両日にわたって国土技術政策総合研究所にて行われ、「下水道行政」、「規制と評価」、「化学物質の管理」、「流域における水システム」、「下水処理技術」、「下水汚泥の有効利用」の6セッションにおいて、対策が必要となっている課題や最新技術について、日本側は10論文、ドイツ側は9論文の発表が行われた。29日から30日にかけては、東京都下水道局の芝浦処理場・有明処理場・海水浄化プラント、京都市下水道局の鳥羽処理場、滋賀県琵琶湖環境部の市街地排水浄化対策事業施設の現地調査を行った。また、ワークショップの最後には共同コミュニケが作成され、ワークショップが両国の研究活動に役立ってきたこと、さらにこれを継続していくことが重要であることを確認し、次回のワークショップがドイツで開催することが合意された。

今回の会議で得られた知見や情報は、我が国の下水道技術者にとって有益なものと思われる。本報告書は、このような考えに基づき、ワークショップにおける発表論文と討議の内容を取りまとめたものである。報告書の冒頭にあたり、各委員及び関係各位に深く感謝するとともに、本報告書が我が国の下水道分野で活用され、下水道技術の発展に寄与することを希望する次第である。

平成16年3月

第9回日独排水及びスラッジ処理についてのワークショップ

日本側委員団 団長 宮原 茂